

「第33回環境教育・環境学習ネットワーク会議」議事録

- 1 日 時：令和3年3月23日（火） 15:00～17:00
- 2 場 所：横須賀市消防局庁舎3階第3会議室
- 3 出席者：天白座長、桐谷副座長、市下構成員、内船構成員、遠藤雅弘構成員、
遠藤由美子構成員、加藤構成員、高橋構成員、堀井構成員、（計9名）
- 4 事務局：環境政策部環境企画課（松尾課長、鈴木係長、大場主任、天野）
- 5 傍聴者：なし
- 6 その他：新型コロナウイルス感染症の影響により、一部構成員がWebにより参加

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 令和3年度の環境教育・環境学習事業について
 - (2) 「（仮称）横須賀市新環境基本計画」における「環境教育・環境学習」について
「（仮称）横須賀市新環境基本計画」策定についての意見について
- 3 その他
環境教育・環境学習ネットワーク会議のあり方について

◆ 議題1 令和3年度の環境教育・環境学習事業について

〔事務局からの説明〕

令和3年度に環境企画課で実施予定の環境教育・環境学習事業への助言及び新規事業についてのご意見をいただきたい。

■天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問等はあるか。

令和3年度の事業について、予算はある程度確定していると思うが、どの程度までこの会議で提案をしたものが来年度に反映されるのか。

■事務局（鈴木係長）

予算については、市議会で議案として可決しないと決定とはならないが、これまでの市議会での予算審議の中で、環境教育の事業については概ね了承をいただいているので、このまま令和3年度予算になるであろうと思う。

例えば、新規事業の予算案については、「何か違う事業に置き換えた方が良い」、「もっとこうしたほうが良い」というご意見があれば、「こうした事業ができないか」、「更に、予算の調整が可能であればこうした事業も行いたい」など、市の財務当局と相談をすることもできるかもしれない。

今年度はコロナの影響で予定していたほとんどの事業ができず、この会議でも「人材育成講座でエコミルを見学したい」と提案したものの、エコミル自体が見学の受け入れを行っていなかったことから中止となった。来年度もエコミルに見学を要望しているが、現時点では目途は立っていないとのことであった。

「教員向け環境学習講座」は、市下構成員にご協力いただきながら7月末から8月上旬の間

で実施予定であるが、例年、秋から1月の間で実施している「活動者向け相互交流を生かした人材育成講座」については、「こういう場所の見学はどうか」、「こういう講師から話を聞いてみたい」などのご意見等があればご提案をいただきたい。

■天白座長

特に意見等がないようだが、後日お気付きの点等があれば、随時事務局にご意見を伝えていただきたい。

◆議題2 「(仮称)横須賀市新環境基本計画」における「環境教育・環境学習」について

[事務局からの説明]

「(仮称)横須賀市新環境基本計画」(素案)における「環境教育・環境学習」に係る「施策の柱」や「施策の方向」についてご意見等をいただき、今後の計画策定の参考にしていきたい。

■天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問等はあるか。

■高橋構成員

1点目は、資料2の「2 新計画における基本目標と施策の柱」で、「施策の柱」を見るとSDGsのロゴマークの記載があり、SDGsをかなり前面に出しているように見える。

例えば、基本的な方針として、SDGsの基本的な考え方により世代を超えた全ての人がより良く生きるといったような横須賀を作ることとをまず概要として出すことによりイメージしやすくすると良いと感じた。

2点目は、環境の関係で基本目標5にSDGs 4、12、17を記載しているが、14、15の海の豊かさや陸の豊かさも記載した方が良いと思う。

3点目は、資料2「第5章リーディングプロジェクト」の「1-(2)リーディングプロジェクトの設定の考え方」で、「ブルーカーボンに関するプロジェクト」にあるブルーカーボンについて、「ブルーカーボン」は「ゼロカーボン」に含めて「ゼロカーボン」とする方が市の方向性として合致していると感じた。

4点目は、資料3「3新たな環境教育・環境学習の取り組みについて」に「子どもたちが関わり、学べるような仕組みを創出していただきたい」とある。具体的にはこれからだと思うが、先程のリーディングプロジェクトにおけるゼロカーボンについて、できれば専門家にテキストを作成していただき、まず専門家から学校の先生や市民団体に対してレクチャーをする。そして、学校の先生や市民団体が児童・生徒や市民の皆さんに同じテキストを使ってレクチャーをする。テキストには実践まで書かれていると具体的な行動に結びつくと感じたので、そのような体験ができると良いと感じた。

■天白座長

ただ今のご意見について事務局いかがか。

■事務局(松尾課長)

1点目のSDGsについては、持続可能な開発目標17のゴールとの関連を示すため、今回マ

ッピングをしたいと考えているが、いただいたご意見のとおり、SDGsや17のゴールについて、きちんと説明を書きたい。

2点目については、イメージをお示ししたもので、ゴールの14、15やその他のゴールについても、今後、環境企画課で精査していく予定である。

3点目については、確かに「ブルーカーボン」は事業名と同じになってしまうので、もう少し広くプロジェクトを捉えていくという面では、本市が1月に宣言した「ゼロカーボンシティ」といった言葉を使うことも良いのかもしれないので、今日のご意見を踏まえて環境審議会でもご意見を伺ってきたい。

4点目については、「環境教育・環境学習ネットワーク会議設置要綱」の「第2条(2)横須賀市環境教育・環境学習マスタープランに関連する市の施策のアドバイスを行うこと」の規定に基づき、環境教育・環境学習ネットワーク会議として「新環境基本計画」策定について市へ意見を提出してはどうかとの事務局からの提案である。ご意見をいただいたような具体的な事業については今後環境企画課で検討していくことになるが、この環境教育・環境学習ネットワーク会議として、市に対する要望や提案を提出してはどうかという提案である。

「内容をもう少し書いた方が良い」、「これは市に伝えた方が良い」、「もう少し詳しく書いた方が良い」など、ご意見があればいただきたい。

■天白座長

「新環境基本計画」素案作成の後に「ゼロカーボンシティ」を宣言したと思うので、計画素案のブラッシュアップをこれから是非行っていただき、よりアグレッシブな基本計画にしていきたいと思いますと思っている。

資料3については、フリーな形でこの会議から提案を出すとのことだが、「あらゆる人が参画できる」などと記載してあり、その通りだと思うが、見方によってはもう既に「あらゆる人たちが環境教育に参画できるような形」になっていて、それがどの程度の質を求めているかが違うのかと思う。

「横須賀市に環境教育あり」のような形で、もっとこうしたらより質の高い環境学習の人づくり、場づくりが提供できるなど、アイデア等があれば、是非ご意見をいただきたい。

■高橋構成員

資料3の「3新たな環境教育・環境学習の取り組みについて」の「学べるような仕組み」だが、ブルーカーボンも海洋プラスチック対策も実践が大事なので、「実践」という文言が入ると良いのではないかと感じた。そうすれば、次に具体化するときに私が最初に話したようなことが見えてくるかもしれない。

■事務局（鈴木係長）

「マスタープラン」と併せて「環境学習プログラム」があるが、これは「マスタープラン」策定時から更新されていない部分もあり、現在の施策等と乖離している部分もあるのでお配りしていないが、新しい計画に移行する中で、高橋構成員からのご意見のように専門家によるテキストの作成など、更に実践できる仕組みについても検討している。市では2～3年に一度、小学校5年生ぐらいを対象にした「よこすかのかんきょう」という総合学習の副読本を作成し、希望校に配付している。平成31年3月発行の最新版では、「海に漂うプラスチックごみ」や「食品ロス」などの内容も加え、どう実践するかまでは記載していないものの、子どもたちに授業

で見てもらい、環境への意識を呼び起こすような学習教材として学校へ配付している。

高橋構成員からいただいたご意見のように、新環境基本計画には今後の市の方向性ととも、ブルーカーボンにおける具体的な実践プログラムのようなものも書き込んで配布するとともに、インターネットを利用すれば多くの人に見てもらえるようになると思う。

小学校4年生、5年生がメインの対象ではあるが、幅広い世代にも分かりやすく見ていただけるようにブラッシュアップを続けていかなければいけないと思っている。

■事務局（松尾課長）

高橋構成員にいただいたご意見については、「子どもたちが関わり、実践などを通じて学べるような」という記載を加えるということによろしいか。

■高橋構成員

具体的にやってみると、次にやりやすくなると感じる。

■事務局（松尾課長）

教室や机上でも学べることも含める意味で「など」とさせていただき、「実践などを通じて学べるような仕組み」と修正させていただく。

■天白座長

座長としてではなく、意見を申し上げたい。

新環境基本計画の基本目標5「環境教育・環境学習」についての予算はどれくらい増えるのか。爆発的に増えれば色々なことができるが、既存の予算額や事業に近い形であると難しく、今年度、環境学習の機会を色々持ってみて頭を悩ませたことがある。

「温暖化」や「気候変動」は、子どもはとても良く学習をしていて、インターネットも使っているが、例えば、久里浜の火力発電所の問題については、どう解釈して子どもたちに伝えればいいのか指導者間でも方向性が定まっていなため、もやもやした感じで終わってしまうこともある。子どもたちには、学習の副教材のような冊子も良いが、できれば、横須賀の環境学習を行う際に講師や学校の先生に委ねる部分も大きくあると思うが、このような解釈をしたらどうかといった指導要領のようなものがあるととてもありがたいと個人的に感じている。

■事務局（松尾課長）

テキストを作成するかは別として、「温暖化」や「気候変動」などについては、おそらく石炭火力発電所を踏まえてのご意見だと思うが、「温暖化」と「気候変動」、火力発電所の立ち位置や関係については、色々な考え方やご意見があるのは私どもも承知をしている。

どっちが良い悪いという話ではなく、子どもたちがそれについてどう考えるのかを引き出すような学習や授業などができたら良いのではないかと考えている。

もちろん、「温暖化」や「気候変動」への対応の一方で、エネルギー問題における石炭火力や事業者の考えについて子どもたちに考えてもらい、子どもたちがそれを学習しながら「こうした方が良いのでは」といった学習ができたら良いと思う。

特にこの問題については、令和5年度に石炭火力発電所が稼働を始める中で、私たちの暮らしにおける行動や事業者への要望など、考えることは一つではないと思うので、こうしたことを学習できたら良いと思う。

■天白座長

指導者たちの間に認識として共有できるような仕組みが欲しい。

決して発電所はNGだという方向に持っていくのではなく、「皆さんで考えましょう」ということを指導しましょう」のようなところが伝わると良いと思う。

今回の議題についてこの会議で皆さんにご意見をいただく機会は今回だけなのか、それとも、もう少し考える時間はあるのか。

■事務局（鈴木係長）

新環境基本計画については、環境審議会の審議スケジュールによると今年9月には新計画の方向性が出るため、次回6月で「この会議としてこれで提案しましょう」となると、その提案を反映させることは難しくなる時期だと思う。今年度中には、今日いただいたご意見も含めて市へ提出したいので、お気付きの点等があれば追加でいただいても良いかと思う。

■天白座長

この環境教育・環境学習ネットワーク会議からの発信という形で非常に重要な提案だと思うので、これをもって事務局と私に一任ということでは不十分かと思う。是非、皆様から様々なご意見を事務局に積極的に出していただきたいと思う。

■事務局（松尾課長）

後日、ご意見をいただけるようであれば、ご意見を送っていただき、大きな変更があれば皆さんに照会して確認をさせていただき、最終的には座長と事務局で確認し、環境教育・環境学習ネットワーク会議として市に提出することよろしいか。

簡易な修正であれば座長と事務局とにご一任いただけると大変助かる場所である。

■天白座長

大きな変更があった場合には、皆さんに照会をしていただくという進め方で皆様よろしいか。特にご異議がないようなので、そのようにさせていただく。

本日の議題は以上となるが、構成員の皆様から言い残されたことはあるか。

■高橋構成員

資料1「よこすかECO通信」の令和3年度の一面テーマの内容について、SDGsの話が出たので、どこかでSDGsを特集したらどうかと感じているのでご検討いただければありがたい。

■天白座長

他にご意見はあるか。

それでは、次に、「3その他 環境教育・環境学習ネットワーク会議のあり方について」事務局から説明をお願いしたい。

〔事務局からの説明〕

当会議は「環境教育・環境学習マスタープラン設置要綱」第1条（設置）に基づき設置する

ことを規定しているが、「環境教育・環境学習マスタープラン」の計画期間が令和4年3月末までであることから、令和4年度以降のこの会議のあり方についてご意見いただきたい。

■天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問等はあるか。

環境教育・環境学習ネットワーク会議の設置根拠が変わるということで、名前や枠組みが変わるだけでなく、環境学習をより一層推進していくための組織に変えてはどうかとの説明もあったが、ご意見はあるか。

■桐谷構成員

資料4「環境教育・環境学習ネットワーク会議」のあり方についての「2（2）新たな組織の所掌事務（案）」では、今までは「検討」を行っていたが、そこから一歩進めて「実施・実践」する組織にしていきたいとあるが、もう少し具体的なイメージを教えてください。

■事務局（鈴木係長）

例えば、以前、野崎構成員がご自身の団体のイベントを行う際に電力が必要になり、桐谷構成員に電気自動車リーフを出していただいたという話を聞いたが、実はこうして構成員同士の繋がりで何か別のことが外でもできているということに気付かされた。

熱心に活動している方同士のまさしくネットワークがそこに存在すると実感するとともに、色々な立ち位置や主体の方が構成員にいらっしゃるので、環境教育・環境学習ネットワーク会議全体が参加をして何かの事業やイベントを行うのも一つの姿であり、また、構成員の方々同士が、個人や所属する団体の繋がりで相互に協力ができるようなイベントや取り組みといったものが発生し、フレキシブルに色々な形になりながら、環境教育・環境学習に繋がるような行動ができてくるといったこともイメージすることもできる。

具体的な取り組みについては、まだ提案できるほどのものがあるわけではないが、連携しながら全体でできること、何かをきっかけに個々に繋がりの一つができることが新たな組織に期待するところである。

■事務局（松尾課長）

補足をさせていただく。

元々この環境教育・環境学習ネットワーク会議は、行政だけで色々なことを考えるよりも実際に現場の皆さまのご意見を聞きながら、色々な取組・施策を行っていくことが必要と考え、色々な方に参画していただき設置した会議である。

これまで、人材育成講座などの事業について、この会議のご意見を聞きながら進めてきてはいるが、次の組織では、例えば、市から予算をもらってこの会議として何か事業を行うことも検討できればとも考えているので、皆さんのご意見をお聞きしたいのが正直なところである。

■桐谷構成員

まさか事例として出していただくとは思っていなかったのが驚いている。野崎さんと天白さんと一緒に実施したのは確か一昨年だったと思うが、声をかけていただき、ご協力できる場所があればということで、電気自動車を出して湘南国際村で小さなイベントを行った。あまり大きいと結構大変だが、身軽な感じで色々連携をしながら、それが大きな活動に将来的に繋が

っていけば良いと思っている。

前から話しているように、この環境教育・環境学習ネットワーク会議は、せっかく色々な立場の方がいらっしゃるのに、別々に行っていたのではあまり面白味もなく、その中で色々なコラボレーションをすることが、また新たな価値を生み出していくのだろうと思っているので、そのような方向に持っていくのは賛成ですし、ぜひ協力できるところはしていきたいと思っている。

■天白座長

非常に今後の伸びしろのある組織にさせていただけるのであれば、個人的にも非常に賛成をしている。

話は前後するが、資料4「3その他のご相談(お願い)」にある第6期構成員の任期を特例措置として8か月延長することについて、反対または構成員を続けていただけない方はいらっしゃるか。

特に反対はないようなので、このお願いにあるように構成員の任期を延長することとしたいと思う。構成員の皆さまにおかれましては引き続きよろしくお願ひしたい。

次に、新たな組織の設置については、引き続き様々な主体が参画する場として協議会のような話もあったが、新たな組織の姿について、来年度も3回の会議が予定されているので、今日すぐということではなく、引き続き意見交換を重ねていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

他にご意見はあるか。

■桐谷構成員

先程の話にも少し関係することで特に学校関係の方にお伺ひしたい。

今、学校でのIT、ネットワーク環境というのはどのくらい整備されているのか。具体的に言うと、例えば、企業側でオンラインでの環境授業が可能と言ったときに、横須賀市の小学校や中学校が障害なく実施できる環境にあるのかどうかをお聞きしたい。

■天白座長

市下構成員、いかがか。

■市下構成員

横須賀市立学校のネットワーク環境としましては、文部科学省が進めているGIGAスクール構想を横須賀市でも進めていて、児童・生徒1人に1台の端末と無線のネットワークの環境を整えているところである。

先行して各学校に1台ずつではあるが、ネットワークにフリーで繋がる端末が入っているの、市立の小学校、中学校、幼稚園でオンライン会議等ができる環境になっている。オンラインでの授業を行っていただけると我々がGIGAスクールを進めている部分としてもすごくありがたい。そのようなノウハウや実績を積んでいきたいと思っているところである。

■桐谷構成員

我々の会社もそれほどリソースはないが、その中でどこに軸足を置いていくのかということを行っている。

コロナ禍の中でネットワークでの事業を要望される学校が非常に増えている。実は先日、新潟県の小学校で実施したが、まだごちない部分があるものの結構色々なやりとりが児童とできる。また、非常に良かったのが今まで出前で行く場合にはコロナに関係なく人数制限が出てしまうが、ネットワークだと時間さえ空いていれば、色々な分野の人が結構何人も参加でこいたりして、児童にとっても色々な学びの機会になるのではないかと思う。

単にコロナだからということではなく、このようなITを上手く使って学習の機会を増やしていくのは今後必要だと思っている。

先程いただいた話をもとに、我々もそういったところにウェイトを置いていこうかと思う。

■天白座長

私も小学校でZoomの授業を行ったが、まだ学校に1台しかなく、各教室に繋がらず、学年で一同に会することができないのでどうするかで結構苦労した。色々と端末の制約があるようになかなか苦労した。来年度から端末が増えるということで大変ありがたい話だと思う。

他にご意見はあるか。特になければ、事務局から事務連絡をお願いしたい。

◆事務局から事務連絡

■事務局（大場主任）

事務連絡が3点ある。

1点目は、本日の議題について追加のご意見等があれば、3月30日（火）までに事務局へご連絡をいただきたい。

2点目は、席上配付した「よこすかECO通信」第40号は、皆様の所属組織などで情報共有などご活用いただきたい。

3点目は、次回の会議開催は令和3年6月頃を予定しているため、改めて日程調整を行うのでよろしくをお願いしたい。

■天白座長

以上をもって、第33回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終了する。